

OUA Electroacoustic Music Festival 2019

秋の電子音響祭 2019

ごあいさつ

この度は大阪芸術大学音楽学科 音楽・音響デザインコース「秋の電子音響祭 2019」OUA Electroacoustic Music Festival 2019 にお越し頂きありがとうございます。この電子音響祭は音楽学科 音楽・音響デザインコースで電子音響音楽や音響技術を学ぶ学生を中心とした研究成果発表の場として、さらに通信教育部音楽学科生や大学院生、海外公募による作品発表の場として、より多くの電子音響音楽作品を世界に発信しようと企画されたもので、リニューアルから本年度で4回目となります。

今回も引き続き「親しみやすい・開かれた電子音響」をテーマに、「吐きだせ、『電音』の全て」をキャッチコピーに、SRを駆使したライブパフォーマンスや在校生による新作コンサート、そして 25.1ch スピーカー再生システムを用いたゲスト・アーティストによるレクチャー・コンサート、さらに海外公募アーティスト達のコンサートも、実験ドームとアートホールを主会場に開かれます。

本年は大阪芸術大学に音楽学科が開設されて 50 周年にあたります。これを記念した講演会や演奏会を今回の電子音響祭に合わせて開催出来ます事は、我々一同にとって大きな喜びであります。こうした今を迎えられるのも、音楽学科を長年に渡って支えて下さった皆様のお陰と心から感謝致しております。

最後になりましたが、電子音響祭に準備段階から協力していただいた多くの方々に厚く御礼申し上げますと共に、この祭典が今後益々発展致しますよう、一層のご理解とご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

2019 年 11 月吉日
大阪芸術大学 音楽学科教授 芹澤 秀近

目次

ごあいさつ	1
目次	2
プログラム	3
プログラム 1 作品解説 ～在校生アコースマティック作品上演～	5
プログラム 2 ゲストアーティスト レクチャーコンサート	7
プログラム 3 作品解説 ～在校生ライブパフォーマンス 1～	8
プログラム 4 音楽学科開設 50 周年記念イベント	10
プログラム 5 作品解説 ～在校生ライブパフォーマンス 2～	14
プログラム 6 海外公募作品 概要	15
Closing secret LIVE	41
スタッフ	42
インフォメーション	44

プログラム

11 月 22 日（金）

プログラム 1

在校生アコースマティック作品上演 @実験ドーム 10:30～

1. 電子音響×ドラム 杉本 泰我(M16)
2. 音楽学科開講科目「電子音響音楽 1」成果発表

プログラム 2

ゲストアーティストレクチャーコンサート @実験ドーム 第 1 部 13:20～ 第 2 部 15:00～
ゲスト 柴山 拓郎

11 月 23 日（土・祝）

プログラム 3

在校生ライブパフォーマンス 1 @実験ドーム 10:30～

1. humanoid 岡田 拓也(M16)
2. 溪流 千代松 菖大(M17)
3. α2uЯmēИт 【ζréак ∩ R】 河田 裕真(M16)
4. 730 松田 和樹(M18)
5. アンビソニックスの体験 森 帆乃香(M16)

プログラム 4

音楽学科開設 50 周年記念イベント @AV ホール／アートホール 13:00～

11 月 24 日（日）

プログラム 5

在校生ライブパフォーマンス 2 @実験ドーム 10:30～

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 現代社会への | 大矢 晃平(M17), 赤松 雄介(M18), 豊海 航(F17) |
| 2. 即興演奏 | でんどうびうむ [安藤 勇輝(TM15), 井上 光太郎] |
| 3. 現実世界 | 坂本 祐一(M17) |
| 4. Spatial Acoustic Synthesizer | 田代 啓希(MS19) |

プログラム 6

海外公募作品上演 @実験ドーム 13:00～

Closing secret LIVE @アートホール 15:30～

プログラム 1 作品解説 ～在校生アコースマティック作品上演～

2019 年 11 月 22 日（金）@実験ドーム 10:30～

1. 電子音響×ドラム

杉本 泰我(M16)

文字通りです。自身で作成した作品を流しながら、ドラムを演奏します。

2019 年電子音響祭トップバッターとして、最高の幕開けが出来るように最高のパフォーマンスをします。

2. 音楽学科開講科目「電子音響音楽 1」成果発表

音楽学科開講科目「電子音響音楽 1」（2 年次開講）の受講生が、授業を通じて作曲した電子音響音楽を発表します。音響機器やコンピュータ・ソフトウェアの使い方を学びながら作った、多くの受講生にとって初めての電子音響音楽です。この音楽は、音色のもつ音楽的可能性を学ぶことにとくに適しています。通常の作曲では、メロディーの断片、和音、小さなリズムなどが起点になることが多いのですが、電子音響音楽では音色そのものがインスピレーションの源泉になるからです。自らの手によって音色をクリエーションし「この音は美しいかどうか？」と繰り返し問いかけることで音楽表現の種が発見できます。

授業の創作課題では、テーマと条件をいつも与えます。テーマから想像力を飛び立たせ、条件から表現技術を深め、この間に生まれる張力を高めることが、表現者にとって大切なことだからです。今回のテーマは「ヴァイブレーション＝振動」というワードを設定し、条件は一つのモノ音だけで作るというものです。テーマはそれを自由に解釈することで、作品のイメージや手法を考える起点となります。「ヴァイブレーション」は、物理的な振動（音も振動！）や見えない心の震え、触覚的なイメージなど多義的に捉えることができます。このテーマが作品にどのように反映されているのか？そこが聴きどころです。また、たった一つのモノ音に素材音を限定した理由は、音色のほんの少しの違いを聴き分ける力を高める効果があるからです。コンピュータと音響機器を駆使して様々な音色を作り出し、それらの表情の違いを作品に活せるようになってほしいと思います。

（授業担当：檜垣 智也、ティーチング・アシスタント：田代 啓希（大学院作曲研究領域））

*やむをえない事情でプログラムが変更になることがあります。

・グループ 1 使用素材音：ガムテープの音

小出 舜(M18)	Boxcut
-----------	--------

・グループ 2 使用素材音：ケータイから出る通知音

岩竹 咲耶(M17)	うず
木本 浩司(M17)	iPhone てくのろじー
三上 竜輝(M17)	La solitude

・グループ3 使用素材音：お金

内川 誓菜(M18)	宇宙
川口 萌日(M18)	時は金なり
仲谷 千春(M18)	響

・グループ4 使用素材音：アルミホイル

出来 沙友里(M18)	混沌
西井 綾(M18)	aluminum foil
武藤 野々花(M18)	aluminumly
山部 由莉(M18)	アルミいじめ

・グループ5 使用素材音：携帯のバイブレーション機能の振動音

西村 惟(M18)	vibration
林 元気(M18)	質問
松田 和樹(M18)	破棄
福江 勇心(M18)	震え

・グループ6 使用素材音：金属

後藤 七海(M18)	トワイライト
田中 瑞穂(M18)	トロイメライ
中山 龍太郎(M18)	いきなりステーキ
細谷 茉那(M18)	METROPOLIZ

・グループ7 使用素材音：椅子を揺らす音

赤松 雄介(M18)	存在
門崎 元鉄(M18)	不穩
曾田 祥平(M18)	幻想
枳尾 桐雅(M18)	予感
八木 勇氣(M18)	無情

・グループ8 使用素材音：未定

沖 昇太郎(M17)	未定
------------	----

・グループ9 使用素材音：コップを叩く音

前田 彩香(M18)	七色
------------	----

・グループ10 使用素材音：ピアノ

浜崎 佳吾(M15)	MOVE
------------	------

プログラム 2 ゲストアーティスト レクチャーコンサート

2019 年 11 月 22 日（金）@実験ドーム

第一部 13:20-14:50 第二部 15:00-16:30

*各時限とも作品上演と講演が行なわれます（内容は異なります）

柴山 拓郎 Takuro Shibayama

作品「Imaginary Sphere 2019」25.1ch スピーカー立体音響作品

講演「先駆的芸術音楽と私達とのアクチュアリティの創出のための試論と実践」

プロフィール

1971 年東京生まれ。作曲家・サウンドアーティスト。東京音楽大学・同大学院（作曲専攻）修了後、2010 年東京芸術大学大学院美術研究科後期博士課程(先端芸術表現領域)修了。修士(音楽)、博士(美術)。作品は、ICMC2012(リュブリャナ)、2014(アテネ)、2015(テキサス)、ISMIR2015(スペイン)、SMC2016(ハンブルク)への入選、フランス国立視聴覚研究所主催コンサート(パリ)、SoundLiveTokyo2014 および



2015（国際舞台芸術交流センター主催）における 24 個のスピーカーによるサウンドインスタレーション展示など国内外で上演・展示されている。2007 年から Saitama Muse Forum (SMF)の立ち上げに参画、地域社会と芸術表現を結ぶためのワークショップやシンポジウムの企画制作を多数行った。2015 年新たに「電子音響ピープルプロジェクト」を立ち上げ、多様な人々と共にコンピュータを用いた実験的な音楽を制作・共有する活動を展開している。2017 年 4 月から 2018 年 3 月まで、文化庁新進芸術家海外研修員(現代美術分野)としてカールスルーエ・メディアアートセンター（ZKM, Zentrum für Kunst und Medien Karlsruhe）で研究と制作を行った。ZKM では、2007 年からそれぞれ従事した、理化学研究所と東京芸術大学の音楽情動に関する共同研究と、SMF での創作・社会活動とを統合する新たな芸術の表現戦略とそれに基づく作品を完成させ、2018 年 6 月末に講演、個展コンサートの実施およびサウンドインスタレーションの展示を行い高い評価を得た。

これまで、大阪芸術大学通信教育部(2005-2014)、常葉学園大学造形学部（2007-2011）、国際基督教大学教養学部（2007-）、女子美術大学（2010-2016）非常勤講師を歴任。2000 年より東京電機大学理工学部情報社会学科で教鞭をとり、現在、同大学理工学部情報システムデザイン学系、同理工学研究科情報学専攻（修士課程）、同先端科学技術研究科（博士課程）教授。

柴山拓郎（ZKM ウェブページ）：<https://zkm.de/de/person/takuro-shibayama>

電子音響ピープルプロジェクト：<https://www.facebook.com/denshionkyopeople/>

埼玉ミューズフォーラム（SMF）：www.artplatform.jp

プログラム 3 作品解説 ～在校生ライブパフォーマンス 1～

2019 年 11 月 23 日（土・祝）@実験ドーム 10:30～

1. humanoid

岡田 拓也(M16)

ある「人形」が憧れた、「人間」になるための物語。

2. 溪流

千代松 菖大(M17)

釣りの様子を録音しました。

3. α2uЯmēИт 【ζréak ∃ R】

河田 裕真(M16)

この作品はコンピュータを用いた即興演奏に、小型スピーカーとスマートフォンで奏でる背景音を加えたサウンドパフォーマンスである。

即興演奏パートには、プログラマーのアンドリュー・ベルト氏を中心とし開発されたモジュラー・シンセサイザーを、コンピューター上に再現したソフトウェア「VCVRacK」を用いて、オリジナル・モジュールを作成した。このモジュールの内容は、異なるテンポが設定できる 5 つのシーケンサーを基本としている。そしてそれぞれのシーケンサーに対し音程、音色、音量のパラメーターをリアルタイムに変化させることができ、多彩なリズムを作り出す。

背景音は会場内にいる聴衆に協力を求めあらかじめ用意された数種類の音源から 1 つを選択しスマートフォンから任意のタイミングで鳴らす。加えて、小型スピーカーを持った助演者が、音源を再生しながら会場を自由に歩くことで、音像の移動を行う。

このパフォーマンスは上記の 2 つが組み合わせさり、その場限りの音響空間を作り出す。つまり、不確定で、その一瞬一瞬が儚いパフォーマンスなのである。

タイトルの読み方は「アジュールメント・スピーカー」で造語であるが特に意味はない。音響空間が常に変化することや、再現不能に近い音楽であることを表すため文字種を異なるもので構成している。タイトルの後半部分の【ζréak ∃ R】は、このパフォーマンスが小型スピーカーを主体としていた初期構想の名残である。この【ζréak ∃ R】の部分は制作した私であっても読むときもあれば、読まないときもあり、まさに不確定だ。

4. 730

松田 和樹(M18)

7月の末に朝の満員電車の中で貧血で意識を失いかけた時の様子を音で表してみました。

5. アンビソニックスの体験

森 帆乃香(M16)

卒業制作でアンビソニックスについて研究中。SENNHEISER の AMBEO VR MIC で自然音、オーケストラとパイプオルガンを録音した。360 度音に包まれる体験をしてほしい。

プログラム 4 音楽学科開設 50 周年記念イベント

2019 年 11 月 23 日（土・祝）@AV ホール／アートホール 13:00～

記念講演「NHK 電子音楽スタジオから大阪芸大・電子音楽スタジオ、そして未来へ」

@AV ホール

講演者 ①小島 努（元 NHK 電子音楽スタジオエンジニア）

②芹澤秀近（音楽学科卒業生 音楽学科教授）

私と電子音楽との関わり

小島 努



放送局の音声技術者として、永年にわたり音声業務に携わってきた。その間に、1969年から約10年余り、電子音楽制作に本格的に関わったので、制作体験を含め、制作を担った技術者、制作の現場のようす、制作設備などの状況について紹介する。当時、ラジオ調整部内には、電子音楽研究班と立体放送研究班が存在しており、どちらも黎明期にあった。電子音楽研究班では、高辻士、塩谷宏をはじめ、技術研究所の藤田尚、安藤由典、他数名によるグループが、電子音楽の制作、研究、機器開発などに取り組んでいた。電子音楽機器もテープレコーダも、真空管式の時代であった。

なお1961年に、塩谷宏がチーフで制作した音楽詩劇《長い長い路に沿って》（ヴォルヒェト詩）、諸井誠作曲の作品の完成時、複数台のテープ再生機で、その素材音を再生する担当として参加したのが、私の電子音楽制作の初期の体験である。当初、電子音楽は、制作技術的なウエートが非常に重く、チーフエンジニアとしての塩谷宏のリーダーシップが絶えず発揮されていた。技術者は、作曲家と共同で芸術的な表現を追究し、様々なアイデアを実現しなければならないが、この面でも作曲家と一緒に音楽論を進めている塩谷の姿から、技術スタッフも音楽について学ぶことの重要性を教えられた。

また当時は、作品制作の重要拠点といわれていたのは、西部ドイツ放送ケルン（WDR、ケルン）、フランス放送協会（ORTF パリ）、イタリア放送協会（RAI ミラノ）、そして、東京のNHKなどの放送局であった。実際には、アメリカ、スウェーデン、オランダ他の大学でも多くの作品が制作されていたが、パブリシティーの面から圧倒的に放送局の作品が知られていた。そして、なかでも長期間にわたって連続して電子音楽を制作し、発表してきたNHKの電子音楽スタジオは、重要な存在と考えられていた。また、当時は部内でも、ラジオ番組の放送作品の中で国際的に通用するのは電子音楽だけではないか、とも言われていた。また組織的な効率化、合理化だけでなく、文化面での貢献に対し配慮できる余裕のある時代でもあった。我々、スタッフも、このように重要視されていた電子音楽の制作で未知の作品の創造に挑戦できるのは有意義であると考えていた。

1968年12月20日、大阪芸術大学に「電子音楽スタジオ」が新設され、そのお披露目がおこなわれた。1969年には、音楽学科に電子音楽や音響技術を専門に学ぶことの出来る「音楽工学コース」が誕生する。大学における日本初の電子音楽スタジオは、NHK 電子音楽スタジオで培われた様々な技術や音楽観を礎に、日本における本格的な教育・研究の場として出発した。主要な教員として作曲家の諸井誠氏と NHK 電子音楽スタジオのチーフエンジニアであった塩谷宏氏、さらに NHK のプロデューサーとして電子音楽を牽引していた上浪渡氏の3人が着任した。

電子音楽スタジオは、当初現在の4号館 A、B スタジオと、それらに挟まれた音響調整室に設置されたが、数年後に6号館 D スタジオの竣工に伴いそちらに統合移転した。その後何度かの改修工事を行い、内装や音声調整卓をはじめとする機器類は一新され、現在もその場所で作品制作が続いている。

1981年に芸術情報センターが竣工し、その中に多次元立体音響システムを備えた、音と映像の制作スタジオ「実験ドーム」が開設されると、そこも作品制作や発表の場として活用され、改修を受けながら現在に至っている。

21世紀になると電子音楽やそれを支えるテクノロジーも大きく変貌を遂げるが、半世紀以上にわたる大阪芸大・電子音楽スタジオの伝統と先駆者としての誇りを活かし、新たな電子音楽の発展を期するものである。



新設当時の D スタジオ

記念演奏「卒業生によるジャムセッション」@アートホール

出演者 セッション① isei ben／べん いせい (M80 卒業生) × 石上 加寿也 (M90 卒業生)
セッション② 松尾 泰伸 (M7 卒業生) × 志村 禅保 (M4 卒業生)

演奏曲 セッション① 即興演奏

セッション② 《天と地のレクイエム》(2015.16 フィギュアスケート・エキシビジョン提供曲) ほか

isei ben／べん いせい



音が干渉し合うことで生み出される調和に興味を持ち、都市空間に於けるサウンドデザインをテーマに活動。公共施設のジングル、CM 曲、イベント曲の制作など都市域で奏でられる様々な音の制作を行ってきた。

主な仕事:

東京芸術劇場全ホールチャイム作曲・制作／NTT PC INFOSPHERE TVCM 曲作編曲／電気事業連合会イベント用楽曲制作 等

Interested in the harmony created by the interference of sounds and works on the theme of sound design in urban spaces. Produced various sounds played in urban areas such as jingles in public facilities, commercials, and event music.

Main work:

Composition and production of all the Tokyo art theater chimes / NTT PC INFOSPHERE TVCM composition / electric business alliance event production etc.

石上 加寿也 KAZUYA ISHIGAMI

1972 年大阪生まれ。幼児期からテープレコーダーで遊ぶ。1994 年から音楽プログラミング言語 Max を使用したパフォーマンスを開始。1997 年にフランス INA-GRM にて作品制作および発表をおこなう。1999 年から 2005 年にかけてヨーロッパ、アメリカ等でライブツアーをおこなう。DR ドイツ公共放送からの委嘱作品制作をはじめ、MUSLAB (メキシコ)、RADIA (イタリア)、ZEPPELIN (スペイン)、ICMC などの国際会議・国際電子音響音楽祭で作品上演をおこなう。自主レーベル NESU-318 を主宰し、これまでに 100 タイトルを超える作品をリリースする。



https://soundcloud.com/kazuya_ishigami

<https://neus318.bandcamp.com/>

松尾 泰伸 Yasunobu Matsuo (作曲家、ヒーリングピアニスト ピアノシンセサイザーアーティスト)



1982 年 大阪芸術大学卒業後、舞踏グループ「白虎社」に音楽監督・演奏者として参加。アジア・中近東・ヨーロッパ等、世界を巡る。1988 年「ワールドミュージック」ブームの先駆けとなるグループ mar·pa でメジャーデビュー。1997 年よりネイチャー環境映像 DVD「Virtual trip」シリーズ他 (PONY CANYON)27 タイトルの音楽を担当。2005 年 高倉健主演・チャン イーモウ監督『単騎、千里を走る』プロモーション映像の音楽を担当。2011 年「全国植樹祭わかやま 2011」天皇皇后両陛下記念植樹「お手植え」の音楽提供。「ドライ・ラマ法王 14 世特別講演・特別法話」高野山大学・大阪会場の音楽提供。2015 年『フィギュアスケート 羽生結弦選手 2015-2016 エキシビジョンプログラム楽曲』に、「天と地のレクイエム (3・11 東日本大震災 鎮魂曲)」が選ばれる。「2015 紀の国わかやま国体」総合開会式 式典前演技音楽担当。2018 年 アメリカ セドナ ヒーリングピアノコンサート。NY 在住監督による、映画『Ainu|ひと』の音楽を担当。2019 年 NY マンハッタン島『JAA Holl』ピアノソロ公演。NY『広島長崎 原爆投下 追悼平和式典』でのピアノ演奏。

志村 禅保 SIMURA, Zenpo

大阪芸術大学音楽学科音楽工学専攻卒業。故、塩谷宏師に電子音楽の創作と録音技術およびコンサート音響を極めるためには、古代から受け継がれる文化の探究が必要であることを学ぶ。後にコンピュータ音楽における伝統邦楽様式の拡張を目指して Cyber 尺八を開発し、AI 的振る舞いを模倣させた尺八本曲《電腦巢籠》の制作により、国際コンピュータ音楽会議 ICMC1993 東京、1994 デンマーク、1996 香港に入選。また、故、月溪恒子師と共同で全国尺八史料調査を実施し、各地の虚無僧尺八の技法を学ぶ。尺八研究で博士 (学術)。国際尺八フェスティバルほかで歴史的尺八について講演・演奏、前衛的作品の初演を行なう。大阪芸術大学教授。また、ライフワークとして、日本音楽教育の再構築、尺八博物館運営、奉納演奏 (竹号は志村禅保) に傾倒。主著『古管尺八の楽器学』出版芸術社。『事典 世界音楽の本』(共著) 岩波書店。CD 浜松市楽器博物館 39「地無し尺八の可能性 ～ 祈りから未来へ」、同 49「箏の古典と白蘭の響き」、「高橋悠治の肖像」(avex-CLASSICS) 他。



写真：川邊祐之亮

プログラム 5 作品解説 ～在校生ライブパフォーマンス 2～

2019 年 11 月 24 日（日）@実験ドーム 10:30～

1. 現代社会への

大矢 晃平(M17), 赤松 雄介(M18), 豊海 航(F17)

私達には技術も才能も御座いません。ですが、やる気と根性、パッションだけは誰にも負けないと自負しております。非常に見苦しい演奏ですが、名前だけでも覚えて帰ってください。よろしくお願い致します。※音量注意です。

2. 即興演奏

でんどうびうむ [安藤 勇輝(TM15), 井上 光太郎]

一市民にうつる現行政府の姿をループマシンとギターノイズにのせて。

3. 現実世界

坂本 祐一(M17)

3 回目の参加となりました
今度は音の現実世界へ冒険です
それは本当に現実的でしょうか？
よろしくお願いします

4. Spatial Acoustic Synthesizer

田代 啓希(MS19)

本作は Max ベースのリアルタイム空間合成システムによる空間合成に加え、ユーロラック規格の小型モジュラーシンセサイザーによる音響合成を組み合わせた即興演奏ライブパフォーマンスである。

リアルタイム空間合成システムは、演奏者自身が 6 つのスピーカーを使用したマルチチャンネルの空間合成を、リアルタイムに演奏と直結した形で可能としたシステムである。システムの構造は音響学的な様々な要素とデジタル・アナログ両方の相互的な信号処理を応用したものである。それらを活用したいくつかのアルゴリズムによって、リアルタイムにパラメータを制御して空間合成を行なっている。

使用するモジュラーシンセサイザーはその多くをデジタルモジュールで構成しており、比較的現代的なモジュラーシンセサイザーのモジュール構成となっている。基本的に数個のモジュールを組み合わせで 1 つの音を合成しており、合成されたいくつかの音を外部ミキサーにまとめている。外部ミキサー自体も演奏装置の 1 つとして機能しており、モジュラーシンセサイザーのシステムの一部として組み込まれている。

リアルタイム空間合成システムとの連携は、モジュラーシンセサイザーがアナログ制御電圧 (CV) を入出力できる点を活用し、DC カップリングに対応した AD/DA コンバーターを通して行われている。

プログラム 6 海外公募作品 概要

2019 年 11 月 24 日（日）@実験ドーム 13:00～

インスタレーション展示

2019 年 11 月 22 日～24 日 @AV ホール前

Virtual Exhibition

2019 年 11 月 11 日～24 日 @Mixcloud

<https://www.mixcloud.com/ouaemf/>

Program 6-1

1. Anamnesis	Aileen Wallace
2. n^2	Martin Ritter
3. Studio Sincretico VIIIb	Marco Bidin
4. Der Drachenkönig	Alyssa Aska
5. Till The End	Lee Kwang Goh
6. Analog Forest	Fernando Laub
7. Sheep shearing machien	Ferrer-Orozco Ivan
8. Burst	Andreja Andric
9. The Iron Rose	Junzuo Li
10. look at the way that she shivers	Jude Duane
11. Antebellum	Luis Carlos Martinez Wilde
12. Metamorli	Alessandro Grego
13. Mécaniste	Paolo Pastorino
14. for you	Sarah Westwood
15. Étude: Splice-Tone Melody	Raphael Radna

Program 6-2

16. Shatter	Stephen Montalvo
17. Between the Mountain and I	Tao Li
18. Stange Encounters	Brian Garbet
19. Hookah	Nikos Makris
20. Colophony	Timothy Roy
21. Dolce_tormento	Einike Leppik
22. A Bit Animalistic	Roland Kuit
23. Prediction	Dante Tanzi
24. Black Velvet	Louise Rossiter
25. Io i Coperchi	Valerio Orlandini
26. After marble	Ekaterina STEPPE
27. Apocalipsis (el origen)	Sebastian Pafundo
28. spiralis	INFLUUT (Nat Cilia & Daniel Maszkowicz)
29. Santuario II	Gaspar Peralta
30. air	George Rahi

Program: 6-1 No: 1

Anamnesis (2016)-3'00

Aileen Wallace (アイルランド／1983)

作品解説：

By definition, Anamnesis is the act of recalling memory and this specific act is what I wish to invoke in the engaged audience. The piece itself is composed of memory. Each sonic layer used to sculpt this composition is taken from field recordings of personal experiences over a 7 year timeline. Even though our memories are unique and specific to each of us, they are also transmutable, and therefore, can resonate deeply with others.

プロフィール：

As an artist, Wallace predominantly works with sound, and much of her material is presented in an Audio/Visual medium. She has a keen interest in sonic architecture, and temporal space, both of which she has explored through her recent sound compositions, and A/V installations. Her work undoubtedly reflects her methodologies, practice, and experimental recording techniques that are quintessential elements to her sound.

In 2017 Wallace exhibited works in Limerick City Gallery of Art in collaboration with multidisciplinary artist Isabella Walsh, and Soul Noir: Festival of The Dark Arts, Dublin. She returned to Soul Noir again in 2018, and featured work broadcast live on Sonic Darts, U.K. , and collaborated with filmmaker Chirs O Neil on 'Fragments' which premiered at Cork Film Festival, and later premiered in Italy, the U.S, and Brazil. In 2019 she performed at Cork Sound Fair under the moniker of Las Eden, Scene and Heard Festival, and Mixtape IWD at Dundalk IT, Ireland.

Program: 6-1 No: 2

n² (2012)-3'05

Martin Ritter (オーストリア／1982)

作品解説：

n² (noise squared) only contains white noise. Filtering and phase-differences between the channels are the only means of change.

プロフィール：

Martin Ritter studied composition in Canada and currently lives in Graz, Austria. He writes both electronic as well as instrumental works and is performed across Europe, North America, and Asia. As a composer he is interested in the intersection of music, technology, and performance. As a researcher he works with digital tools in order to analyze and understand electronic music. His music and research are featured regularly at conferences and festivals such as ICMC, NIME, EMS, eContact!, Impuls, Darmstadt, ComposIt, MusCan, TENOR. He has received scholarships like the Joseph-Armand Bombardier Canada Graduate Scholarship, the University of Calgary Technologies International Inc. Fellowship Scholarship, Alberta Innovates - Technologies Futures Scholarship, and the Joseph and Melitta KANDLER Scholarship for Advanced Music Study.

He holds a DMA in composition from the University of British Columbia where his primary teachers were Drs. Keith Hamel and Robert Pritchard, and is currently pursuing a PhD in Computational Media Design at the University of Calgary with Drs. Friedemann Sallis and Jeffrey Boyd. At the Universität für Musik und darstellende Kunst Graz he studied composition with Klaus Lang.

Program: 6-1 No: 3

Studio Sincretico VIIIb (2019)-4'30

Marco Bidin (イタリア／1976)

作品解説：

Studio Sincretico VIIIb is part of a cycle of works inspired by the concept of Syncretism (combining and/or blending different elements and beliefs) and at the same time by the perception synchrétique (global perception of the external reality as a whole in the psychology of the children). The music is composed by heterogeneous materials conceived and created in separated artistic processes, now re-interpreted in a new form based on an intuitive balance between contrasts and affinities in rhythms and textures.

プロフィール：

Marco Bidin is a composer, organist and harpsichord player, currently working as a lecturer for the Studio for Electronic Music at the HMDK Stuttgart.

After graduating in Organ, he studied Early Music in Trossingen and Contemporary Music performance in Stuttgart. Under the guidance of Marco Stroppa, he recently completed the terminal degree in Composition with the dissertation “Early Music as inspiration for Contemporary Classical composition”, and the Certificate of Advanced Studies in Computer Music with a dissertation on the usage of electronics as an extension to chamber music.

He lectured, gave courses and performed as a soloist in Europe and Asia, and his compositions have been performed in Germany, France, Portugal, Italy, Canada, Japan, South Korea and China.

Program: 6-1 No: 4

Der Drachenkönig (2018)-5'00

Alyssa Aska (アメリカ／1985)

作品解説：

Functional relationships described as power laws determine many things in our world including natural phenomenon (such as volcanoes), relative city size, and the distribution of words in language. This composition uses a type of power law, called a Zipf distribution, to determine compositional parameters such as pitch, form, and timbral content. A single randomly generated Zipf distribution set of numbers was applied to each parameter in a different way.

プロフィール：

Alyssa is fascinated with the architecture of music, both spatially and temporally. She composes works which explore extremes in time and space, using rigid proportions to generate forms in acoustic works and exploring the unpredictable duration and lack of control in gamified works.

She studied composition in the United States with Robert Kyr, David Crumb, and Jeffrey Stolet, in Canada with Robert Pritchard, Keith Hamel, and David Eagle, and currently studies in Graz, Austria with Marko Ciciliani and Klaus Lang.

Her works and research have been performed worldwide at conferences and festivals such as ICMC, NIME, EMS, Impuls Academy, Darmstadt Summer Courses, Musikprotokoll Graz, Tonraum21, Mikrofest Helsinki, and many others. She is also a founding member of the Graz-based Facere collective, which is dedicated to producing several unique concert events each year.

When Alyssa isn't writing music, she publishes fiction under various pen names.

Program: 6-1 No: 5

Till The End (2019)-4'33

Lee Kwang Goh 吳 利光 (マレーシア／1976)

作品解説：

This work is about the restless machine working endlessly. Forever and ever.

プロフィール：

Goh Lee Kwang is a prolific artist who wears many hats. He is a sound artist and composer. He also runs the label Herbal Records. His own bandcamp page features a staggering 671 releases. He also organizes the Switch On Mini Festival, which brings together local and international sound artists in the hub of Kuala Lumpur.

Program: 6-1 No: 6

Analog Forest (2003)-4'59

Fernando Laub (アルゼンチン／オーストラリア／1973)

作品解説：

Analog Forest is a piece entirely composed with an ARP 2600 synthesizer. I personally played the instrument recording as many takes as possible in order to construct a solid structure. The result was a trilling, descriptive soundscape that evolves going through many different states.

プロフィール：

Composer and sound artist mainly orientated to avant-garde and electroacoustic music. His work has received prizes and mentions at many international contests. It is also programmed at numerous festivals around the globe As a performer his most recent activities includes a Europe tour were he played a sound art performance interacting with current street sounds. In 2016 he was selected to perform at the NY Philharmonic Biennial and the Burning Man festival European edition. As an audiovisual producer, he shot an experimental documentary throughout the Mojave desert, the film was premiered in Germany and Czech Republic playing its soundtrack as a sound art performance. In 2017 he performed at the SEAMUS National Conference among other. Founder of Delforus ensemble, project aimed to spread new musical languages. From middle nineties till nowadays he began to compose a vast repertory compiled as a collection of albums released throughout the years.
www.flaub.net

Program: 6-1 No: 7

Sheep shearing machine (2014)-3'50

Ferrer-Orozco Ivan (メキシコ／1976)

作品解説：

Sheep shearing machine (2014)

On my sound gardens, I use material recorded at places where I stay for a while or that I periodically visit. In this case, the material was recorded at a very small and charming town in the province of Burgos, Spain, from where my father in law comes from and that I visit every year on spring and summer: Olmillos de Sasamón. Being along the year one of the coldest regions of Spain, when the good weather comes in later May everything changes, the town triples its population and the nature explodes. It's also time to shear the sheep.

プロフィール：

Mexico City, Mexico, 1976. Iván Ferrer-Orozco is a composer, electronic media performer and sideman. His music has been performed at several concert series and festivals in Europe, America and Asia. He has been artist in residence in institutions of Spain, France, USA, Mexico, South Korea, Germany, Argentina, Canada and Cyprus; and his works have been awarded at several call of works: A Tempo Ensemble-CMMAS (Mexico 2018), 44th and 43rd International Computer Music Conference (NYC 2019, South Korea 2018), IV and II Electroacoustic Music Festival UC (Chile 2018, 2016), Seoul International Computer Music Festival (South Korea 2016), Sonosintesis Festival (Mexico 2016); LEMATS (Spain) and the University of Montreal (2014), MATA Festival (NYC 2011), San Diego New Music and NOISE Ensemble (2010), and the Seattle Latin American Music Festival (2008). Iván is musician and production and new media manager of NEOPERCUSION, avant-garde Madrid based ensemble. He is also a very active electronic media performer and sideman, collaborating with soloists and ensembles from Spain and abroad.

Program: 6-1 No: 8

Burst (2013)-3'00

Andreja Andric (セルビア／1973)

作品解説：

Burst is motivated by experience of continuous crisis on both personal and broader social level and being on the verge of bursting under pressure from different sides. The piece builds its narrative by means of a computer simulation, as a dense cluster of many sounds stretches and squeezes in an unpredictably and abruptly changing sound space. Instead of telling or showing the story, the work enacts the drama in sound. Staying clear of all the developments in off-the-shelf music software, the composition is programmed in C language.

プロフィール：

Andreja Andric (born 1973) is a Serbian composer and programmer, living in Aarhus in Denmark since 2014. He cultivates a keen interest in basic elements of music: pure intervals, tones, colors, durations. He uses computer programming as key means of artistic expression, with the aim of discovering pristine, dynamic and complex sound worlds. Pioneer of solo smartphone symphony as a music genre and of smartphone recital as a concert practice, he is also active in the fields of computer music, video and software art. His work has been presented in venues such as Museum of Moscow and Musikhuset Aarhus, and he has performed in numerous international new media and sound art festivals such as World Music Days 2019 in Tallinn, Estonia and Festival Futura in Crest, France (2018). Holds a PhD in Music Informatics from the State University of Milan, Italy.

Program: 6-1 No: 9

The Iron Rose (2018)-4'45

Junzuo Li (中国／1995)

作品解説：

Rose is a common plant in nature, but she contains many different temperament; the temperament of fortitude, stubbornness, erosion, gentleness, enthusiasm and mystery seems to appear in this plant, she has just The combination of softness and harmony, this feature also attracted the composer.

In this fixed-media piece, the composer creates the concept of “Holophony” proposed by the Greek composer Panayiotis Kokoras, trying to effectively integrate a variety of different sounds, and also in the gesture of the sound, The texture and the timbre shape are shaped and carved to reflect the theme to be expressed.

This piece was completed by Lisbon, Portugal's Lisbon Incomum studio.

プロフィール：

Junzuo Li, master candidate in Electroacoustic music composition at the China Conservatory of Music in Beijing, China. He is graduated from Sichuan Conservatory of Music in 2017, and admitted to the China Conservatory of Music to pursue the master's degree in the same year, supervised by Professor Ping Jin. During the master's, he studied with Professor Ping Jin, and he also studied Electroacoustic music composition with Annette Vande Gorne, Jaime Reis and Ake Parmerud. he current research and composition interests include electroacoustic music composition and multimedia composition research.

He has won several composition prizes in recent years, such as, the second prize and the third prize of the China computer music composition competition in 2015, the second prize and the third prize of the Musicacoustica-Beijing Electroacoustic music composition competition in 2016—2018 etc.

His pieces have performances in Chengdu, Beijing (Musicacoustica), Shanghai (New media music Festival), Ukraine (Kyiv contemporary music days), Portugal (Lisbon uncommon-Festival DME) and New York (ICMC2018).

Program: 6-1 No: 10

look at the way that she shivers (2019)-4'42

Jude Duane (アメリカ／1999)

作品解説：

I originally made this piece as a score for a Bernadette Corporation film. The film features a snowy forest juxtaposed with images of models. The piece samples the song "My Kind of Girl," which ends with the line "look at the way that she cooks!" So I combined these elements to make the title.

プロフィール：

Jude Duane is a New Jersey-based composer and sound artist. He is currently pursuing his Bachelor of Music degree at Montclair State University in Montclair, New Jersey. Jude currently studies electronic music under the tutelage of Nathaniel May. In the past, he has also studied with Nathan Davis and Monte Weber.

Program: 6-1 No: 11

Antebellum (2018)-4'59

Luis Carlos Martinez Wilde (ボリビア／1986)

作品解説：

Antebellum is an acousmatic piece constructed using analog and digital synthesis, sound objects and real time instrument processing. All these elements coexist and interact with each other in equal conditions, achieving a dialectic between “musical sounds” and “noise sounds”.

プロフィール：

Luis C. Martinez Wilde (1986) is a Bolivian composer and music researcher. He studied composition under the guidance of Gastón Arce Sejas at Loyola University (Bolivia) and later with Alberto Villalpando. During his studying years he began experimenting with electroacoustic music, area in which he specialized by taking courses and workshops with different composers and sound artists. His catalogue includes works for live electronics, acousmatic, mixed and generative music, as well as choral and chamber music. His pieces have been presented in different festivals in Latin America and Europe.

Program: 6-1 No: 12

Metamorli (2018)-5'00

Alessandro Grego (イタリア／1969)

作品解説：

Starting from the last note of the work, a piccolo's affirmative and slightly rising SI, I have developed an infinite story that only for editorial reasons I have limited to five minutes: the software that elaborates the sound is based on retroactive processes for which the resultant signal is continually returned to the input and reworked, thus producing a virtually endless loop.

The piccolo's note is a sample taken from the 2003 recording of Heliossea by Roberto Fabbriciani, to whom also Metamorli is dedicated.

プロフィール：

His composition "L'Aura" was selected for preservation by the National Library of France among the thousands produced in the world since the last century.

Host of several research centers on electroacoustic music including the IMEB Bourges, the WDR in Cologne and the ICST in Zurich. His music has been performed at festivals and international concert halls (Salzburg Mozarteum, Brandeburger Theatre, Conservatory of Music of Malaga, Frederick Loewe Theatre in New York, St. Michel Theatre in Brussels, Music Biennale Zagreb, Teatro Dal Verme in Milan, Festival "International Days of Music of Composers" in Krakow, Festival Synthese, Centro Tempo Reale in Florence, etc.). He has written music for drama series produced by RAI, and performed live in collaboration with the Italian C.S.C. - National Film Archive. His compositions are published by RAICom, Bèrben, Carisch and recorded for label Phoenix, Agora, ARTS, Urbania, AWAL, VDM Records and Tactus.

Program: 6-1 No: 13

Mécaniste (2018)-3'36

Paolo Pastorino (イタリア／1983)

作品解説：

""Mechanistic"" is the conception that reduces reality to only two factors: matter (bodies) and their movement (including the laws that govern it).

In the modern age the universe is described as one ""Machine"" composed of bodies that are subject to an incessant movement, a continuous interaction, regulated by the necessary causality, that is, by a rigid concatenation of causes and effects, mathematically determinable.

""Mécaniste"", like most of my compositions, is a work that comes from the concept of causality, which is the relationship that links the cause with the effect. Therefore it's causality that drives me mainly in the organization of the sound material. In any case, the compositional intent is always to maintain a clear dichotomy between the real sound and what derives from its elaboration.

With Mécaniste, I have tried to recreate an environment where chaos and causality coexist; these two aspects could be in contrast one with the other so from this contrast the unpredictability of the mechanistic system derives.

プロフィール：

Paolo Pastorino (Sassari - Italy, 1983) is an electroacoustic and acousmatic composer.

Since 2006 he starts to work as sound engineer for some Rock, Industrial and Nu-Metal bands. He studied and graduated in electronic music and sound technologies at the Conservatory of Sassari and he is specialized in the same course at the Conservatory of Cagliari.

He has participated in several master classes held by artists such as Jean Claude Risset, Curtis Roads, Bernard Fort, John Chowning, Yann Robin, Eckart Altenmüller, Michelangelo Lupone and Tolga Tüzün. He also attended an artistic training internship at the Centro Ricerche Musicali (CRM) in Rome under the guidance of Michelangelo Lupone.

His compositions have been presented in several contemporary and electroacoustic music festivals in different countries of the world.

He currently teaches music technologies in high school.

Program: 6-1 No: 14

for you (2018)-4'58

Sarah Westwood (イギリス／1989)

作品解説：

This piece was originally created for Moses Hacmon, to use for 'Faces of Water' - part art, part science, part spiritual awakening.

プロフィール：

Sarah Westwood's music is focused on memory, embodiment and somatics; composing for dance, theatre, installation and also concert works. She often collaborates with poet Georgie Lorimer, dancer's Eleven Farrer House, and LA based artist/architect Moses Hacmon.

Highlights in 2019 include: composing 'Speaking within / fragmented lines' for the InterString Ensemble (Cross Roads International Festival, Salzburg); collaborating on a music-theatre work with poet Georgie Lorimer 'The Artist's Kintsukuroi', commissioned and performed by Après l'Histoire (Chicago); 'Things you don't yet know you feel' for voice and string quartet toured across UK, with Patricia Auchterlonie and Illuminate String Quartet, starting with a residency at Snape Maltings (Aldeburgh), with funding from Arts Council Funding, RWV Trust and Ambache Charitable Trust; and collaborating with dancers Eleven Farrer House 'choir of perpetual choirs' which toured to Dance Limerick (Ireland), having presented this work at Siobhan Davies Dance Studios (London) in 2018.

Program: 6-1 No: 15

Étude: Splice-Tone Melody (2018)-2'00

Raphael Radna (アメリカ／1990)

作品解説：

Étude: Splice-Tone Melody" features concrete sounds that have been segmented, transformed, and reconfigured according to algorithmic procedures. Assembled on four tracks, it invites listeners to experience timbre, gesture, rhythm, and spatial movement both as a series of discrete events and as a continuum.

プロフィール：

Raphael Radna is a composer, pianist, and electronic musician working in fixed media, interactive music, and computer-assisted composition. He has performed at The Hollywood Bowl, The REDCAT, CounterPulse, The Center for New Music, and the Time-Based Art festival in Portland, OR. He has previously performed in Japan as keyboard player in the band Ice Choir. Raphael is currently pursuing a PhD in Music Composition at UCSB, studying with Clarence Barlow, Curtis Roads, and Andrew Tholl.

Program: 6-2 No: 16

Shatter (2019)-4'59

Stephen Montalvo (アメリカ/1984)

作品解説：

Shatter is a fixed media exploration of the sounds present within a ceramics studio. The sound of the initial creation of the object, wet shaping and molding, and of its destruction, breaking and shattering, are weaved together to explore the idea that although many of the objects that we encounter, both in life and in art, are transitory, physical and philosophical fragments remain and can be influential for far longer than initially intended or understood. Special thanks to Rebecca Allen and William DePauw for their assistance in collecting the recordings used in the creation of the work.

プロフィール：

Stephen Montalvo is an active composer of acoustic and electronic music, as well as an audiovisual installation artist, based in New Orleans, LA. Through his music, he explores concepts related to resonance and rhythmic interplay, and draws inspiration from social, political, and ecological concerns. His works have been performed throughout the United States by artists and ensembles including the Rhythm method String Quartet, Bent Duo, Carlos Cordeiro, the Talea Ensemble, and the Omaha Percussion Ensemble. Stephen holds a Master of Arts in Music Composition from Tulane University where he studied with Maxwell Dulaney and Rick Snow and a Bachelor of Music from West Texas A&M University where he studied percussion with Susan Martin Tariq and composition with Joseph Nelson and Robert Dunham. Current affiliations include the Society of Composers, the Southeastern Composers League, and the Vic Firth Education Team as a Scholastic Educator and Marching Percussion Specialist.

Program: 6-2 No: 17

山吾间 Between the Mountain and I (2017)-1'28

Tao Li (中国／1985)

作品解説：

This piece is part of my song cycle Shan Shui (Mountain River) Remix which was originally composed for soprano and bassoon. The song cycle is comprised of four songs including one bassoon solo and one soprano solo. All songs set poems by Li Bai from the Tang dynasty China. In the remixed version, two remixes are based on recordings of the acoustic bassoon and soprano duo. I try to maintain the form of the acoustic songs and the texts while mixing in electronic elements to achieve a fuller dimension of text painting than was impossible with only acoustic instruments.

""Between the Mountain and I"" set the poem of 独坐敬亭山.

独坐敬亭山

众鸟高飞尽，孤云独去闲。

相看两不厌，只有敬亭山。

プロフィール：

LI Tao is a composer and pianist from China. Chinese traditional culture profoundly influences her music. She uses ancient Chinese ideology combined with contemporary Western techniques to create her own distinct musical language. Tao's music has been performed by ensembles such as Fifth House, Implosion Percussion and at music festivals throughout Asia, Europe and North America such as WOCMAT 2015/17 Taiwan, the New Music on the Bayou 2016/17/18 (LA), Kyiv Contemporary Music Days 2016 (UKR), MUSICACOUSTICA-Beijing, 2017 (CHN), Hot Air New Music festival 2018 (SF), National Student Electronic Music Event, 2018 (TX), SEAMUS 2018 National Conference (OR), New York City Electroacoustic Music Festival, 2018 (NY) and The International Computer Music Conference, 2018 (KR).

She maintains a deep interest in the inner connections between composer, performer and instrument. As an interdisciplinary performer, Tao is actively performing both classical and contemporary music in concerts and music festivals as pianist, percussionist, and conductor.

Program: 6-2 No: 18

Stange Encounters (2018)-5'00

Brian Garbet (カナダ／1970)

作品解説：

An alternative journey by tram in Darmstadt, Germany 2018. Composed as part of a sound installation curated by Christina Kubisch.

プロフィール：

Brian Garbet has composed acoustic and electroacoustic music that often incorporates field recordings through transcription, acoustic analysis, and fixed audio playback. His music has received airplay and performances across Canada as well as Austria, China, Finland, Germany, New Zealand, and the United States. After years of touring and recording with the rock band Crop Circle, Brian is currently a PhD candidate at the University of Calgary under the supervision of Laurie Radford, he has also studied with Barry Truax, Hildegard Westerkamp and Keith Hamel. He has presented his research in Canada, England, Japan, and Korea and has been published in the proceedings of the Electroacoustic Music Studies Network (EMS) and the International Computer Music Conference (ICMC) as well as in eContact! (Canadian Electroacoustic Community). In 2016, Brian returned to Canada from a research residency in the United Kingdom where he was working with Joseph Hyde, P.A. Tremblay, and Trevor Wishart.

Program: 6-2 No: 19

Hookah (2006)-4'55

Nikos Makris (ギリシャ／1979)

作品解説：

A work of sound that originates from external and studio recordings of natural sounds. The content and the idea is the representation of an abstract narrative including a "hidden" flavor of Barok oriental.

プロフィール：

Nikos Makris was born in Athens 03-11-1979. He has a background in music composition and performance, in media art and technology and in social science.

He has studied at Codarts University of the Arts (Rotterdam, the Netherlands) and graduated with his Master researcher diploma in "Music Composition", at "Ionian University- Department of Music Studies (Corfu, Greece) and was awarded with a Master diploma from the interdepartmental program "Sound Art and Technology", and at "Panteion University of Social and Political Sciences", in which he achieved a bachelor title in "Sociology". He has also studied and gained degrees in "Advanced Music Theory", "Jazz Guitar performance and Jazz theory".

more on: <http://nikosmakris.net/>

Program: 6-2 No: 20

Colophony (2016)-4'40

Timothy Roy (アメリカ/1987)

作品解説：

More commonly known as rosin, “colophony” derives its etymology from the ancient Greek city of Colophon, a renowned center for the production of high quality resins. These resins held an important function in social and religious life, as they were used both in the playing of bowed string instruments and during esoteric magical procedures, in the form of fragrances and incense. The text is taken from the so-called Papyri Graecae Magicae (Greek Magical Papyri), a collection of magical formulas, rituals, spells, and hexes dating back to the 2nd century B.C. This particular incipit invokes a long forgotten Greco-Egyptian diety, calling her by her true name.

プロフィール：

TIMOTHY ROY composes music steeped in imagery and allusion, which often seeks to conjure a sense of time, place, and feeling.

His music has been presented at such venues and events as the National Theater of Taipei, Music Biennale Zagreb, Birmingham ElectroAcoustic Sound Theatre, Bowling Green New Music Festival, June in Buffalo, Toronto Electroacoustic Symposium, International Computer Music Festival, Center of Cypriot Composers, SEAMUS National Conference, Electronic Music Midwest, and the International Electroacoustic Music Festival of Chile, “Ai-maako.”

Roy has received honors and awards from ASCAP/SEAMUS, the I-Park Foundation, the International Competition of Electroacoustic Composition “Prix Destellos,” Musicacoustica-Beijing Composition Competition, and the International Composition Competition “Città di Udine.”

Roy is currently completing a doctorate at Rice University’s Shepherd School of Music, where he has taught courses in electronic music, theory, and composition, and served as the Teaching Fellow for the Rice Electroacoustic Music Labs (REMLABS).

Program: 6-2 No: 21

Dolce_tormento (2019)-4'20

Einike Leppik (エストニア／1986)

作品解説：

The composition is based on different type of samples (instrument, field recordings etc), all samples are processed with Audiosculpt using different treatments and analysis.

The name of the composition is referring to the madrigal Si dolce è'l tormento by Claudio Monteverdi. The composing process started with one short sample I cut from the recording of this madrigal. Later on the general ideal developed and moved far from Monteverdi, but the concept of something fragile and torturing at the same time remained.

プロフィール：

Einike Leppik is an Estonian composer and audiovisual artist. She is currently living in Tallinn and teaching audiovisual composition at the Estonian Academy of Music and Theatre.

Leppik received her Master's degree in Classical Composition in 2016. During her studies she followed internships at the State Conservatory of Music "Giuseppe Tartini" in Trieste (supervised by Paolo Pachini) and at the Conservatory of Music "Benedetto Marcello" in Venice (supervised by Riccardo Vaglini). She has taken part in different masterclasses and her music and installations has been presented and performed in numerous festivals such as Estonian Music Days (Estonia), Summersound (Finland), Segnali (Italy), Videoformes (France), eviMus, InSonic (Germany), Gaudeamus Muziekweek (the Neatherlands) and Àgora Actual Percussió (Spain).

Leppik has been writing acoustic and electroacoustic music for different ensembles and solo instruments, her special interest is combining the field of sound with other forms of art.

einikeleppik.com

Program: 6-2 No: 22

A Bit Animalistic (2015)-4'50

Roland Kuit (オランダ／1959)

作品解説：

What happens when you combine two unique and individualistic instruments (the Buchla 200 and Kyma) and one individualistic, experimental composer, fearlessly following the dictates of a bright and restless curiosity (Roland Kuit)?

Kuit's new album, Nanophonic Similarities, is refreshingly raw and experimental. It's pure sound and the thrill of discovery!

Buchla 200 audio is used as a starting point, then algorithmically scrambled, granulated to create a new sono-language and rendered to the quadraphonic 24 bit Super Audio format.

<https://news.symbolicsound.com/2015/07/nanophonic-similarities/>

プロフィール：

Dutch composer and music theorist Roland Emile Kuit decided to proceed beyond the acoustic field after studying flute at the Royal Conservatory, The Hague. He signed up for research in electronic music at the iconic Institute of Sonology in the 1980's in Utrecht. Private lessons by Dick Raaijmakers followed. Roland Emile Kuit lectures, performs/exhibits worldwide at universities, art galleries, museums and creative hubs.

Featured composer & music - sonic art theorist at Donemus Publishing House of Dutch Contemporary Classical Music.

First Dutch composer with sonic works in space by the NASA mission OSIRIS-REx to Bennu 2016.

Program: 6-2 No: 23

Prediction (2006)-3'26

Dante Tanzi (イタリア／1951)

作品解説：

A prediction announces something that is destined to happen; and what is intended is not necessarily unpleasant. But this piece refers to the prediction of a fatal decline of the natural environment. After a start based on percussive clusters followed by a dynamic and reverberant continuum, the piece develops through slight rhythmic patterns and continues with a fatal and obscure decrescendo, interrupted by another cluster. In the tail striated electronic sounds are found mixed with the birds singing through reiterative patterns. Some short sound samples were taken from works by Bernard Fort and Alexandre Yterce.

プロフィール：

Dante Tanzi is a composer and performer of acousmatic music, graduated in Electronic Music at the G. Verdi Conservatory in Como. From 1985 to 2009 he worked at the Computer Science Laboratory of the University of Milan. His compositions have been performed in Italy (Musica Nel Nostro Tempo, Colloquium of Music Informatics, Festival 5 Giornate, Festival Musica e Suoni), in Switzerland (Euromicro, Computer Music Concert), in Canada (EuCue Series), in the United Kingdom (ICMC, Sonorities), in Spain (Flix Festival, Festival Bernaola), in France (Festival Licences, Festival Futura, SIME, En Chair and En Son, Klang!), in Colombia (BunB), in the United States (NYCEMF), in Portugal (DME) in Austria (Ars Electronica) and in Argentina (Atenporànea). In 2011, in 2014, in 2017 and 2018 he curated the program of acousmatic music concerts as part of the 'Festival 5 Giornate' in Milan. He is a founding member of the 'Audior' association (www.audior.eu).

Program: 6-2 No: 24

Black Velvet (2010)-3'56

Louise Rossiter (スコットランド／1986)

作品解説：

Black Velvet was realised in the studios of The University of Aberdeen in early 2010 and was one of my first pieces of Acousmatic music.

The work uses a can of Guinness containing a widget as its sole sound source. I had to explore my chosen sound source as much as possible in order to give birth to something that is a completely different sound world.

Black Velvet was announced as a finalist in the 2010 Musica Nova International Composition Competition. It has been performed widely in China, Canada, USA, UK, Czech Republic.

プロフィール：

Louise Rossiter (1986) is an Electroacoustic composer and sound artist based in Leicester, UK.

Her research interests include expectation in acousmatic music, silence and music, acoustic ecology, multi-channel composition and spatialisation.

Louise's works aim to provide a highly immersive sonic experience which are in some way, unpredictable. Her works have been performed internationally at EMS, Electronic Music Week (Shanghai), Influx (Musiques et Reserches), L'espace du sons, NYCEMF, BEAST, SSSP, Sound Festival, Soundings..., Sound Junction, Toronto Electroacoustic Symposium, Bologna Conservatory of Music and Electroacoustic Wales.

Louise has also had works awarded in several international competitions, including in the Destellos International Composition Competition, Musica Nova (Prague), Franz Liszt Stipendium (Weimar), Electronic Music Week (Shanghai) and in 2012 was awarded first prize in the prestigious L'espace du son international spatialisation competition. Louise's work is published on the Xylem record label (<https://xylemrecords.bandcamp.com>).

Program: 6-2 No: 25

Io i Coperchi (2018)-4'56

Valerio Orlandini (イタリア／1986)

作品解説：

"Io i Coperchi" is a piece of musique concrete based on a handful of short recordings of lids, then transformed in many different ways to obtain a kaleidoscope of sounds and atmospheres. From the concreteness of an everyday object to the abstraction of a mutable timbre, freed from its original identity and thus able to take whichever form it wants.

プロフィール：

Valerio Orlandini is a sound designer and composer from Florence (Italy). Active since 2005 in the field of ambient/industrial music, he then oriented his research towards a meeting point of electroacoustic and concrete music, field recordings and electronic sound design, also integrating his studies in biology and informatics.

During the last years he played in over 60 live events, often collaborating with other musicians coming from different backgrounds, and released some music on CD and tape. He had some compositions played at international festivals.

He is currently attending the course of Music and New Technologies at the Conservatory of Florence "Luigi Cherubini".

Program: 6-2 No: 26

After marble (2018)-3'21

Ekaterina STEPPE (ロシア／1986)

作品解説：

https://youtu.be/nChFS_7FSKI

visual work by Katherina Sadovsky and Lilia Li-Mi-Yan

music by Ekaterina Steppe

プロフィール：

Steppe Ekaterina

07.09.1986 Russia Moscow

Composer, conductor, performer of neoclassical and pop art music as singer and pianist, actress and performer in contemporary productions.

Graduated Gnessin Music College (2008) and Gnessin Russian Academy of Music (2013).

Work as choir conductor, vocal coach in Moscow School of New Cinema, sometimes I conduct the lectures of music history.

I write different music all of my life I had live performances in Berlin with my own vocal duo (2 tours in april and june 2014)

The author and participant of the musical project Nerazluchniki (together with T. Stepanova), who, with the support of Raduga-Brücke Berlin-Moskau, toured in the Berlin with concerts in classical halls, clubs and at the Fete de la Musique in 2014.

Actress and scriptwriter of the short film by N. Kudinova ("The Boy" - festival winner Short to the Point, Bucharest, 2017.

I participated in the production and improvised on the piano in the performance "Instagram.

Stories »N. Chumakov and K. Isaeva (PerForma 2.0, New Space of the Theater of Nations).

Performed a solo concert with my own works and an arrangement for piano violin concerto by Philip Glass (performed together with T. Stepanova) at the bottom of Gorky Park Birthday (Garage Museum of Contemporary Art, August, 2018).

Lives and works in Moscow.

<https://kotikptic.jimdo.com/music-1/>

Program: 6-2 No: 27

Apocalipsis (el origen) (2017)-4'37

Sebastian Pafundo (アルゼンチン／1976)

作品解説：

Apocalypse (the origin) is the first work in a series of 3. The work attempts to show a sound landscape of the beginning of extinction. The work uses saturation as a matrix source, there is a processed piano and many other sounds that will appear.

プロフィール：

Argentino Compositor, profesor de música explorador sonoro amante del arte abstracto.

Participante en varias agrupaciones de Música contemporánea ,exponiendo obras en la Argentina como en el exterior.

Músico de free jazz e improvisación libre (Bajista)

Estudios en IMMA y en el CSMde Falla

Program: 6-2 No: 28

spiralis (2019)-2'50

INFLUUT (Nat Cilia & Daniel Maszkowicz) (スイス／1984[Nat],1982[Daniel])

作品解説：

*I have a music meeting at the
moment and I will be a bit of
a duo if you wish to be a good
time to time to time to time to
time to time to time to time to
time to time to time to time ...*

プロフィール：

Nat Cilia is a Swiss/Spanish multidisciplinary graduated professional artist. She participated as an actress, dancer, composer, and musician (piano, saxophone, voice) to various shows, mainly in Switzerland, France and Spain, notably under the direction of Jean-Pierre Raffaelli, Roland Olbeter, Esterina Zarrillo and company La Fura dels Baus. She founded Ooops! Company, international company for corporal and visual theatre production alongside artist Kristina Orlovic with whom she created several productions (Libre, Orphic and Divagations Intuitives).

Daniel Maszkowicz is a power electronics engineer, music composer, cinema curator, film producer, and performer from Geneva, Switzerland. He is co-founder electroacoustic duo Biblioteq Mdulair, co-founder and producer of performance collective SM Noise, founder of SZKMD production for cinema sound design. His solo project Kosmoscore (a.k.a Generateurs, Cosmos, Cosmic Sleep) takes several forms, from short and intense live concerts to long hypnotic marathon sleep performances. He presented his work internationally and participated to several publications and conventions.

Program: 6-2 No: 29

Santuario II (2018)-3'46

Gaspar Peralta (メキシコ／1990)

作品解説：

Brief piece where it's explored the use of multiple textural layers, timbral counterpoint and isorhythmic patterns to propitiate an intimate aural space.

プロフィール：

Composer, sound artist and pianist working from the northwestern border of Mexico, Tijuana-San Diego region.

His work explores the use of multiple textural layers, isorhythmic patterns, timbral counterpoint, polyphony and repetition as composition tools to produce immersion and an intimate aural space. As a instrumentalist he specialises in the interpretation of polyphonic works.

Has presented his work as composer and performer in the United States, Mexico, United Kingdom, Switzerland and Taiwan in festival's and forum's related to contemporary music and experimental sound practices stand out; MUTEK.MX, New York City Electroacoustic Music Festival, Electroacoustic Music International Exhibition MUSLAB, Sound Though Festival of Music and Sound Research (University of Glasgow), International Workshop on Computer Music and Audio Technology (National Chiao Tung University), Digital Culture Center, among others.

Program: 6-2 No: 30

air (2018)-4'56

George Rahi (カナダ／1987)

作品解説：

air is an electro-acoustic work that uses recordings of Vancouver's largest pipe organ as its source material. In these source recordings the organ was sounded via computer-control and influenced by a generative feedback system that responded to the resonance between the instrument and its surrounding space. These collected acoustic soundscapes were then processed and manipulated in the digital realm, abstracting their sounds further in a reference to the many acousmatic qualities of the organ itself.

プロフィール：

George Rahi is a composer and sound artist based in Vancouver. He uses self-created and altered instruments as a method of exploring the intersections between acoustic and digital technologies, modes of listening, and spatial and architectural thinking. Often foregrounding the tactile and sculptural dimensions of sound, his work includes large-scale installations, compositions for pipe organs, and works for radio, theatre and public spaces. He has presented throughout North America, Europe, and Southeast Asia. He holds an MFA from Simon Fraser University and is the recipient of the 2018 R. Murray Schafer Soundscape award.

Closing secret LIVE

2019 年 11 月 24 日（日）@アートホール 15:30～

出演：

音楽学科副手：喜瀬 麻弥、岩本 未貴、磯本 龍成

音楽学科教員：泉川 秀文、石上 和也

喜瀬 麻弥

2017 年大阪芸術大学演奏学科管弦打コース卒業。同大学卒業演奏会、日本フルート協会関西西部会主催第 43 回フルート新人演奏会に出演。在学中、学内選抜を経て関西音楽大学協会主催「第 37 回アンサンブルのタベ」をはじめ、演奏会に多数出演。現在、大阪芸術大学非常勤副手として音楽学科に所属し、作曲等の授業や学内イベントに伴う事務業務をする傍ら、地元の子供達にリトミックを通じた音楽指導も積極的に行っている。フルートを磯田純子、山本恭平の各氏に師事。

岩本 未貴

大阪芸術大学演奏学科管弦打コースを卒業。卒業時、学科長賞を受賞、同大学卒業演奏会に出演。第 58 回関西新人演奏会、第 33 回ヤマハ管楽器新人演奏会等出演。第 48 回堺市新人演奏会にて奨励賞を受賞。ユーフォニアムを深川雅美氏に師事。現在、大阪芸術大学音楽学科の非常勤副手として勤務。

磯本 龍成

大阪芸術大学大学院芸術研究科博士課程前期課程修了。同大学卒業演奏会に出演。学内オペラでは「魔笛」タミーノ「愛の妙薬」ネモリーノ役で出演。学外では「第九」「カルミナ・ブラーナ」「合唱幻想曲」等のソリストを務める。第 44 回堺市新人演奏会聴衆賞。堺市新進アーティストバンク登録アーティスト。リサイタルや宗教曲ソリスト、演奏会等関西を中心に活動している。大阪芸術大学非常勤副手。三原剛氏に師事。

泉川 秀文

大阪芸術大学大学院博士後期課程修了(芸術博士)。作曲、尺八、音楽学研究、音響情報処理を基盤に「伝統×先端」に挑戦する独特の表現・研究フィールドを展開。2009 年より多国籍和楽器ユニットを主宰、米国と日本を拠点に APEC 等の国際会議や各地の名刹・世界遺産等における公演を重ねる。学会や作曲コンペティションにおける受賞、国際音楽祭上演等、多数有り。東洋音楽学会、情報処理学会・音楽情報科学研究会、日本電子音楽協会、虚無僧研究会ほか会員。

*石上和也（加寿也）のプロフィールは P12 に掲載しています。

スタッフ

- M16 -

森 帆乃香
原田 萌希
西脇 里咲
的場 玲菜
山田 晴也
小宮田 紗規
岡田 拓也
坂口 太基
浮田 大雅

- M17 -

林田 豪士
生田 夏葵
長橋 明日香
三原 ひな
宮永 拓馬
岩竹 咲耶
大家 時音

- M18 -

細谷 茉那
石堂 珠子
川口 萌日
西井 綾
濱田 ひなた
友善 彩
中村 未瑠
藤本 帆乃佳

- M19 -

穴田 ひなの

木村 富貴

中田 龍天

西山 琴葉

西脇 千夏

池田 まどか

内田 りょう

山口 りな

安崎 萌花

高木 胡桃

牛田 一粹

大内 勇魚

笠原 優華

鴨川 生穩

鹿野 里穂子

中島 優里

橋本 ゆうな

半野 太一

米田 光里

渡辺 朱里

梶田 基生

インフォメーション

主催 大阪芸術大学 音楽学科
協力 大阪芸術大学 通信教育部 音楽学科
監修 芹澤 秀近
制作・運営 音楽・音響デザインコース有志

電子音響祭 公式キャラクター **秋野スピ子** デザイン：
新屋 智大 キャラクター造形学科卒業生



フライヤーデザイン：

北野 律希 キャラクター造形学科卒業生（平成 27 年卒）
卒業制作 研究室賞 受賞 / 週間少年マガジン mgp 奨励賞 受賞

ファイルバッグデザイン：

松浪 実希 大阪芸術大学 芸術学部 デザイン学科 グラフィックデザインコース

E-mail ongaku@osaka-geidai.ac.jp (大阪芸術大学音楽学科)
WEB <https://ouaemf2019.wixsite.com/ouaemf>
<http://musicnative.net/ouaemf/>
Twitter 秋の電子音響祭【公式】 @emfes_official_
FaceBook <https://www.facebook.com/ouaemf/>
MixCloud <https://www.mixcloud.com/ouaemf/>

大阪芸術大学

〒585-8555 大阪府南河内郡東山 469

TEL : 0721-93-3781 (代表) HP : <http://www.osaka-geidai.ac.jp>